

かみさま

Vol. 2

葵生蒼空





#3 再会





泣いてる？



誰かが

泣いてる



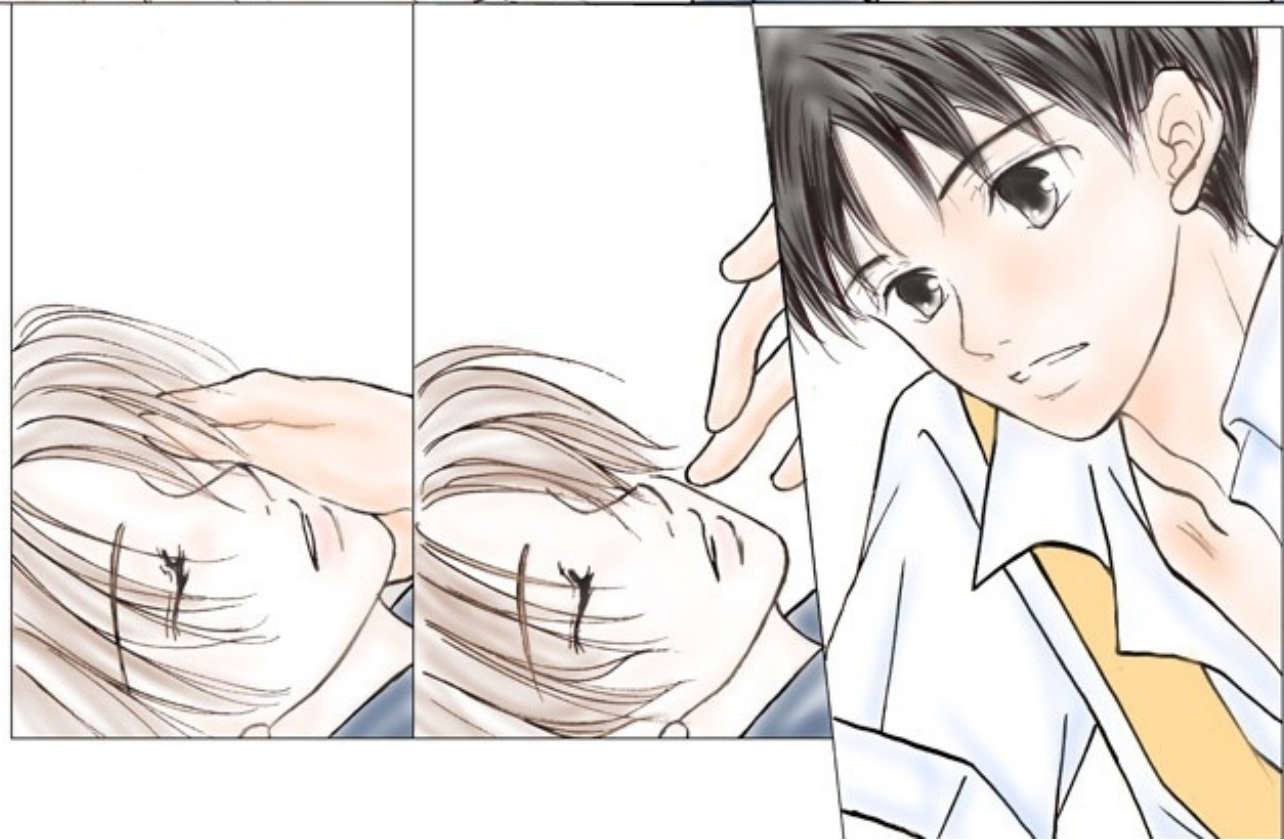


武藤彼方

武藤……









夏なのに

真っ白……

ほんとに……

きれいな……



すっげえ  
武藤、よく  
覚えてたな

全然学校  
来てな……





やべっまた  
余計な事…

お前こそ…  
俺の事なんか

とっくの昔に  
忘れてると  
思ってた

な…  
忘れるわけ  
ないだろ！  
だってお前—

…



だって  
こんな  
きれいな奴

一度見たら  
絶対  
忘れない

—  
なあ

…



え？

涙って、  
どうやって  
止めるんだっけ



武…と…——？

なあ、

どっぴん

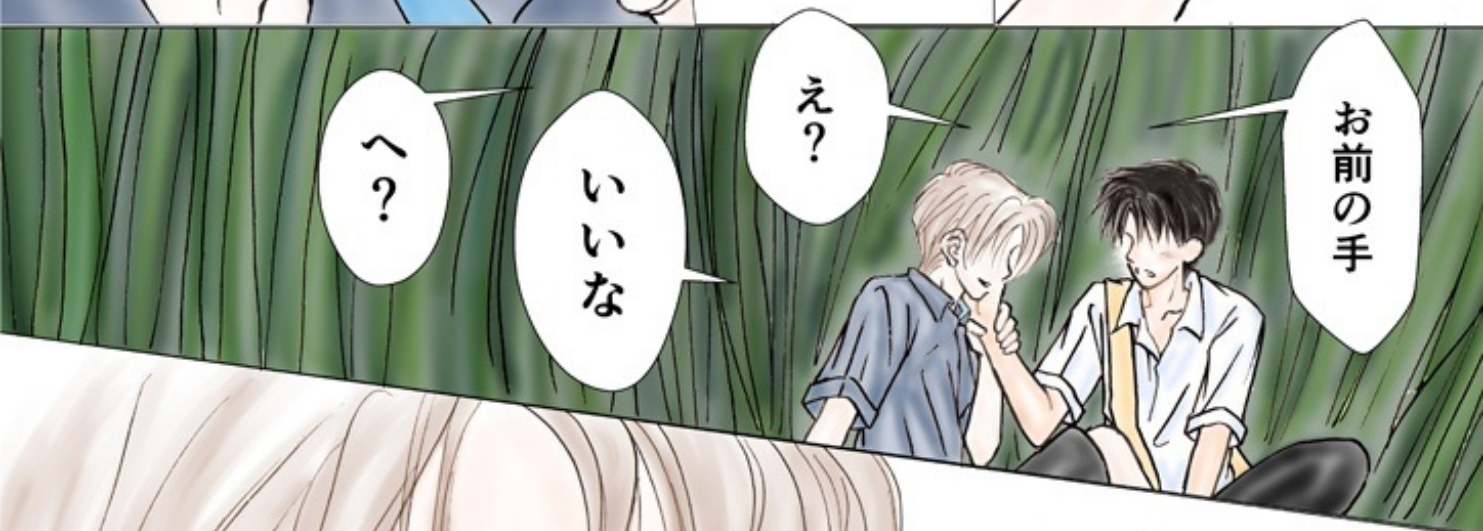
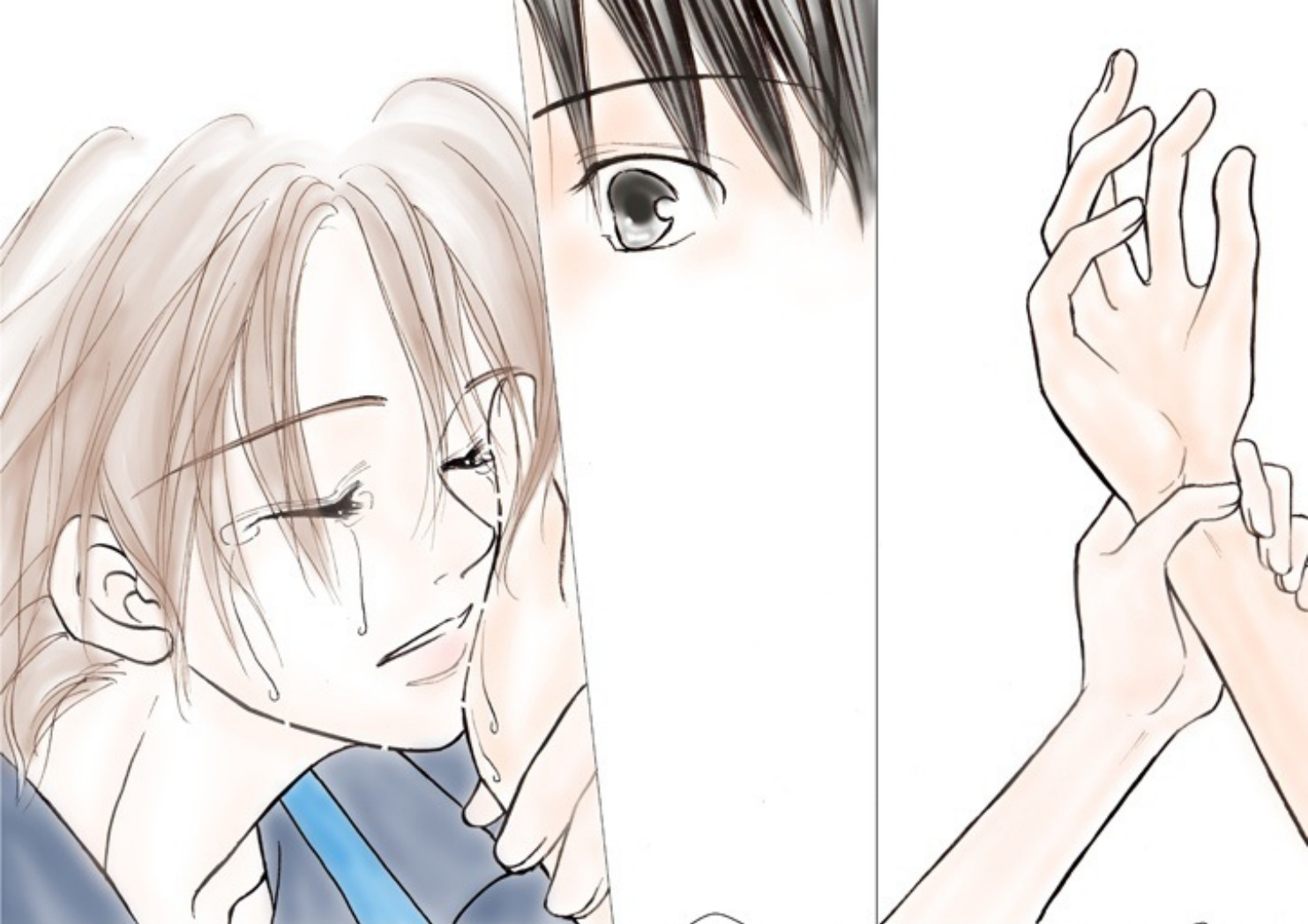
おっきの——？

さっきの  
もっかい  
やっかい

手、

——手、





へ？

いいな

え？

お前の手



俺に頂戴よ





なんだ  
こいつだ!!

わーっ  
よもや  
ハハハハハハ  
ぐしゃぐしゃ

充塚千佳良っ

!

笑ってんなよ!  
お前なんか  
ぐしゃぐしゃに  
してやるっ!

やっばいいよ

お前って

全部くれ



—!—

切るの—?—



ぷっ・まじ顔

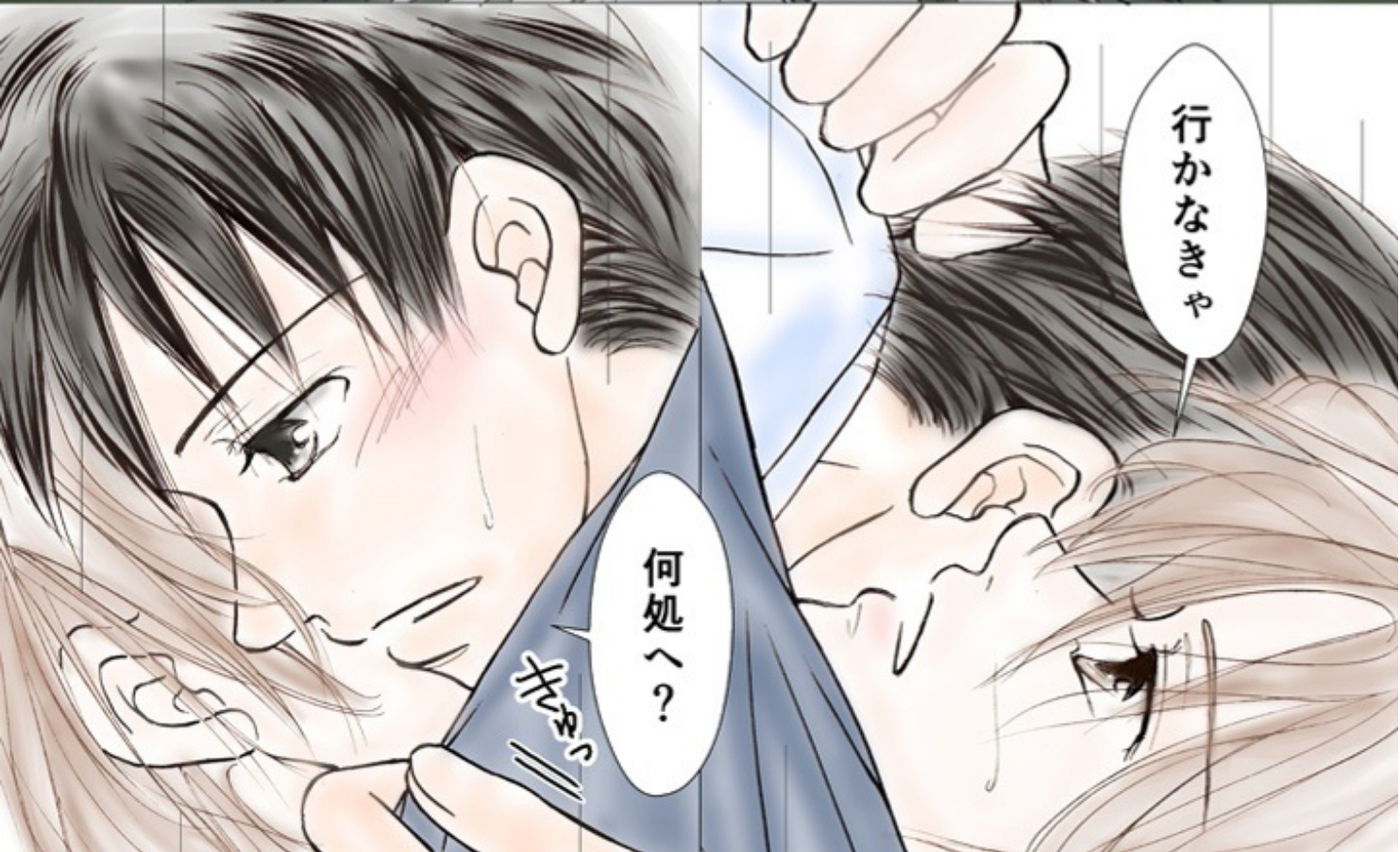
んなわけ  
ねーじゃん

すんげー  
単純思考回路



かあ









武藤！

なんだろう——



家——



この感じ  
学校、来いよ

待俺、  
ってるから

引き裂かれる——









武藤

駆け出したい

大声で叫んで



力いっぱい掴んで

引き戻したい



「この感じ……」

なんだ？



自分の一部が

引き裂かれていくような







#4 名前



悪い！  
俺今日急用  
出来ちゃって

練習パスな、  
ごめん！！

えー!?  
何だよー!  
千佳良ー!

せっかく  
今日プール  
使えんの  
よー!

お前  
いねーと  
りれー  
意味ねー  
じゃん!

悪い  
ごめん  
ごめん  
ごめん



はあ  
はあ  
はあ

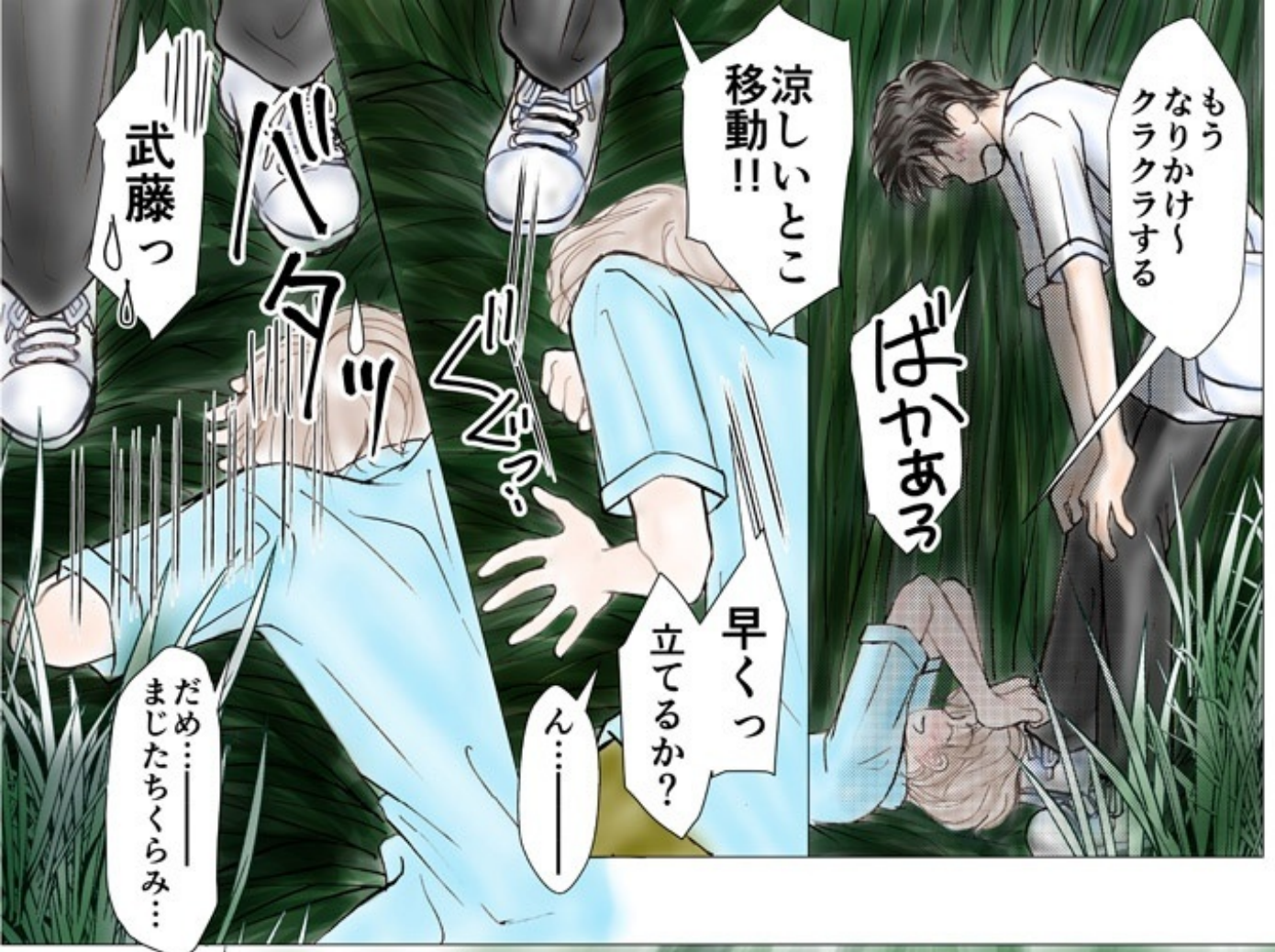
はあ















ぽた

ぽたぽた

ぽたぽた

ぽた

ぽたぽた

ズムム

これ…  
お前の制服？

…



タオル、ペット  
ボトルの水で  
濡らしただけじゃ  
たんねーし

一応水洗い  
したから  
汗臭くは  
ないだろ

ぽたぽた

ぜーたく  
言うなよな



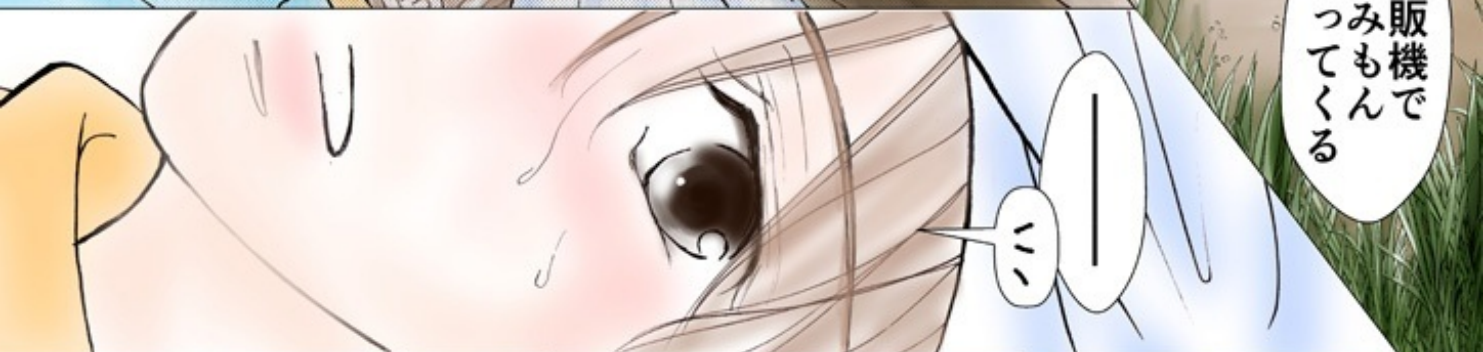


しばらく  
冷やしてりや  
楽になるよ



体力有り有り  
だな

自販機で  
飲みもん  
買ってくる





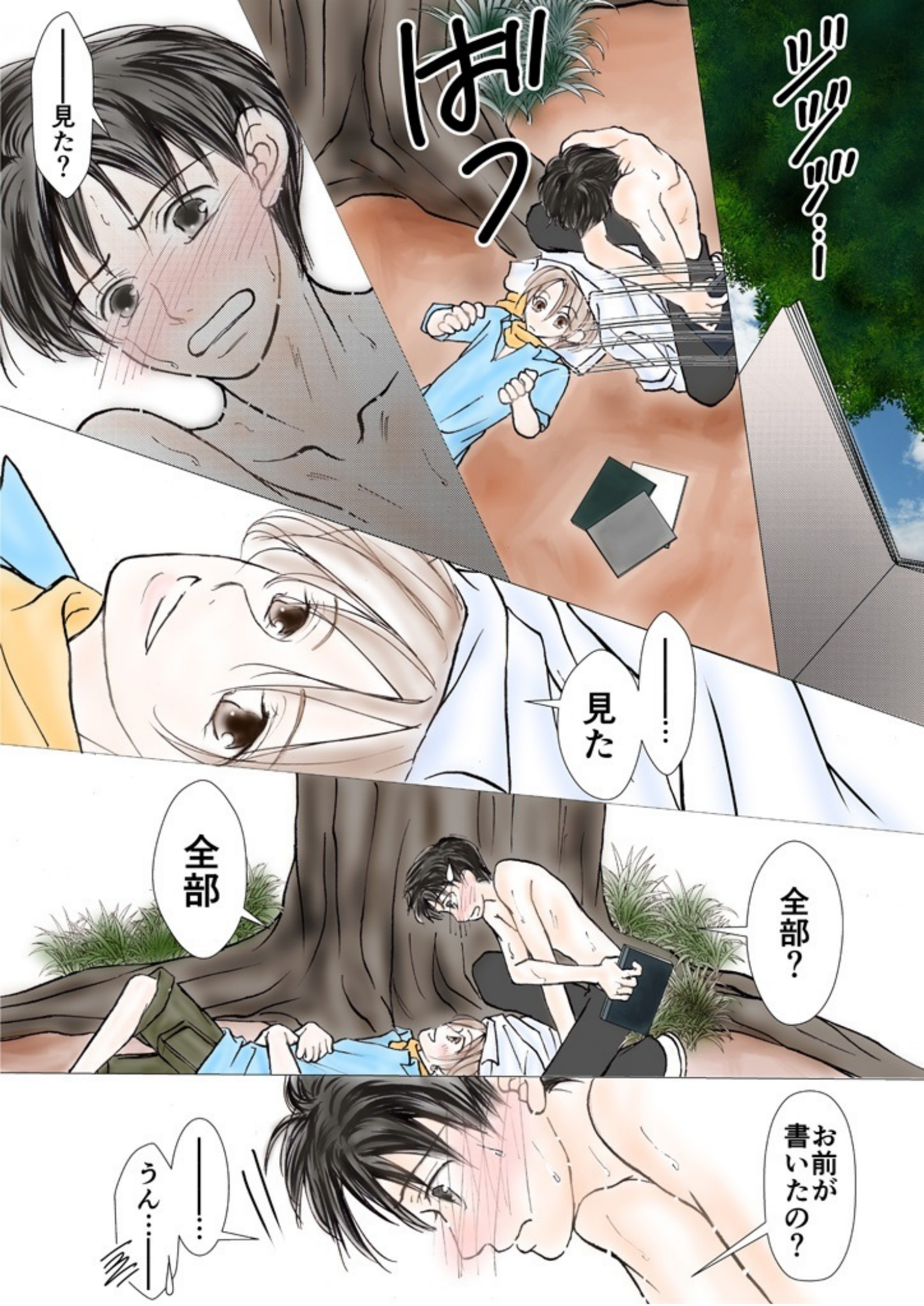
夕回ツキ一帖……

あいつも

パラ

絵なんか描く  
人間なのか……





おはつ

びびびび

見た？

見た

！

全部

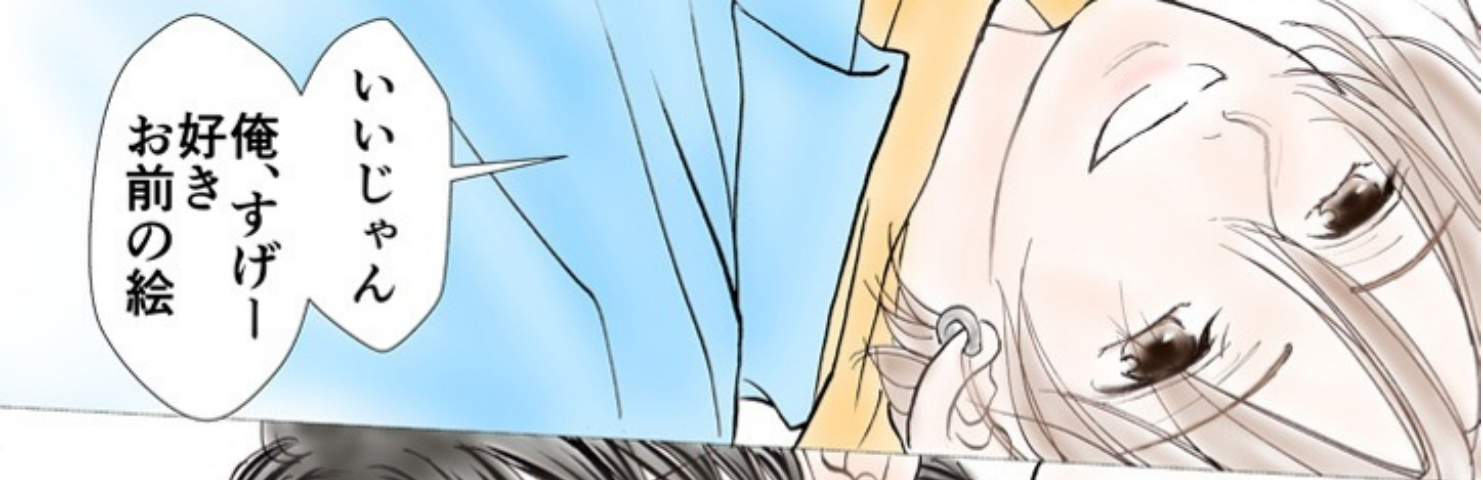
全部？

お前が書いたの？

うん

！





いいじゃん

俺、すげー  
好き  
お前の絵



…



武藤

ん？

あのさ、  
お前に…

ずっと  
頼みあった  
事があってさ、

何？



— お前の絵、  
描かせてくん  
ない？

あっ、えっと、  
すでに一枚  
勝手に描いてん  
だけどさ、

それにお前、  
プロのモデル  
だから、

身の程知らずも  
わかってんだけど  
でも…





すんげー

描きたいー



彼方



お前は俺が作った  
俺の最高傑作

勘違いするな

この体は  
全て  
俺のモノ

お前の意識は  
この体を守る為だけに  
存在する



誰にも

触らせるな

かな……だめ

だって俺、裸の  
モデルしかやった  
ことねーもん

えん!?  
裸ん!?  
で

赤なせか  
くなるー

裸?

いいよ

充塚の  
好きに描いて



ほんとに?!

そのかし  
描いたやつ全部  
見せろよな

と、さ、  
つ、け、な、さ、る、

うんっ

もちろん!!

MUTOH





遥、ごはん

そろそろ  
閉めろよ  
虫入ってくんぞ

兄ちゃん

うん

あ、冷たい  
スパゲティ

うん、お前  
好きだろ



何？



なあ

遥



好きっ

いただきますっ





キキ











違うよ

逢えば  
わかる

全然違う

きっとお前も

救われるよ



—…

武藤んちはた  
一回だけ来た  
ことあつた

入って

初めて会った頃

偶然でも一回  
会えないかと期待して

前通り過ぎてすぐ帰ったけど—

何だろうこの家…





なんか……！、すごく……！

——おじさんは……  
海外行ってん  
だっけ……

おばさんは？

ごめん……

いいって  
気にすん  
なよ

なんか飲むだろ  
ウーロンでい？

あ、うん

病気で死んだ  
3年前

そこらへん  
テキスト座  
ってて



まさか——！、  
こんなでつかい  
こんにいつも  
家ついた一人——？

——！、  
寂しくない？

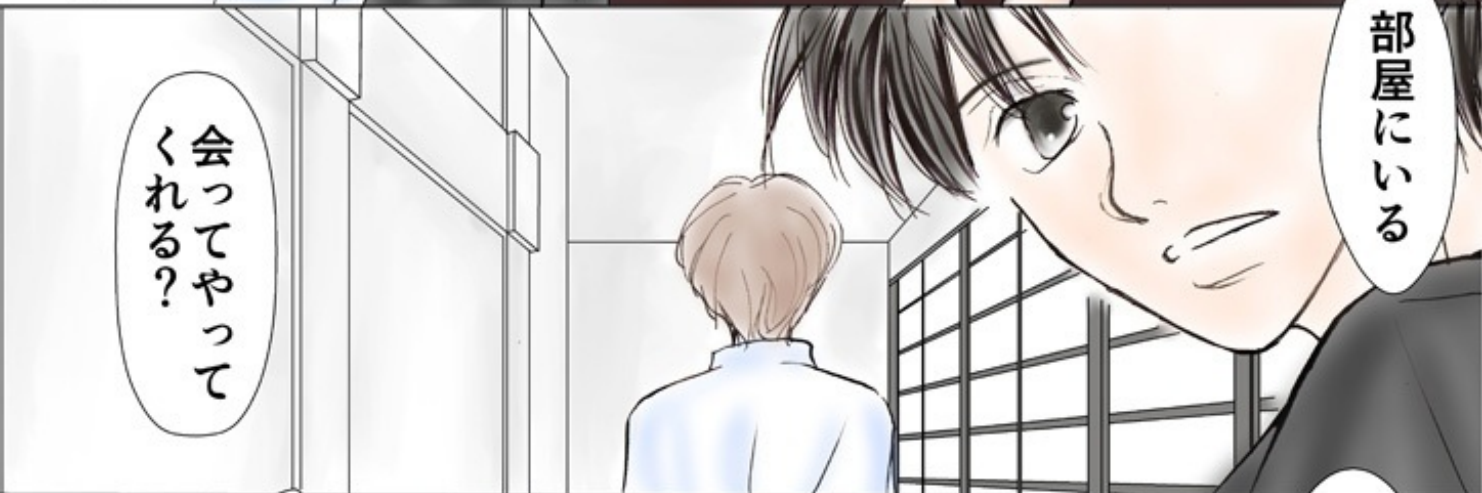


——え？

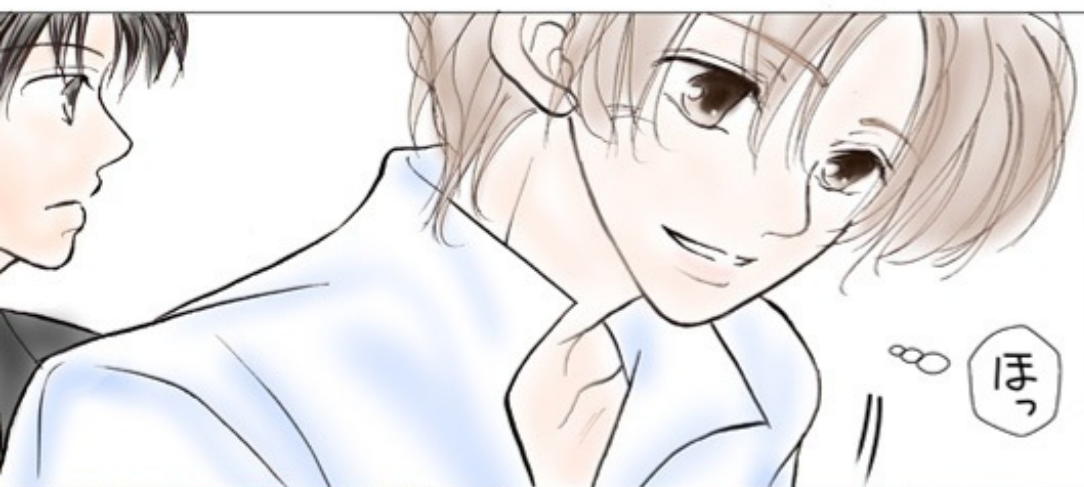
俺だったら  
ここにずっと  
一人でいたら

毎日寂しくて  
泣いてそう

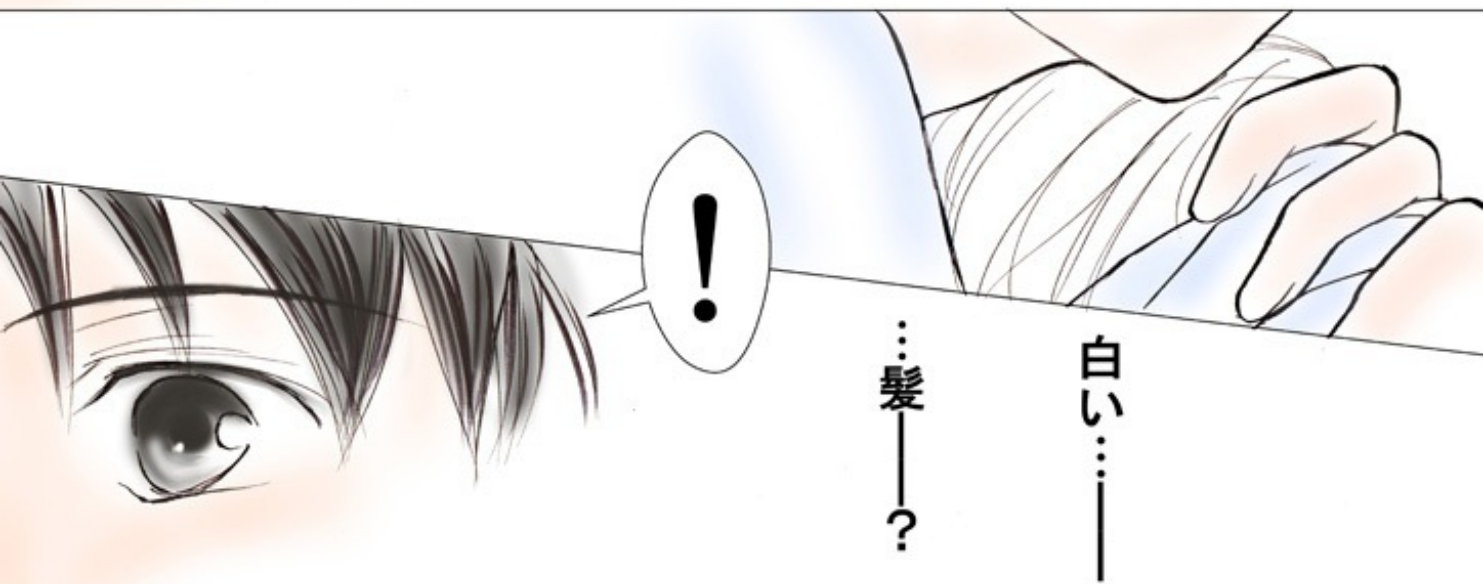
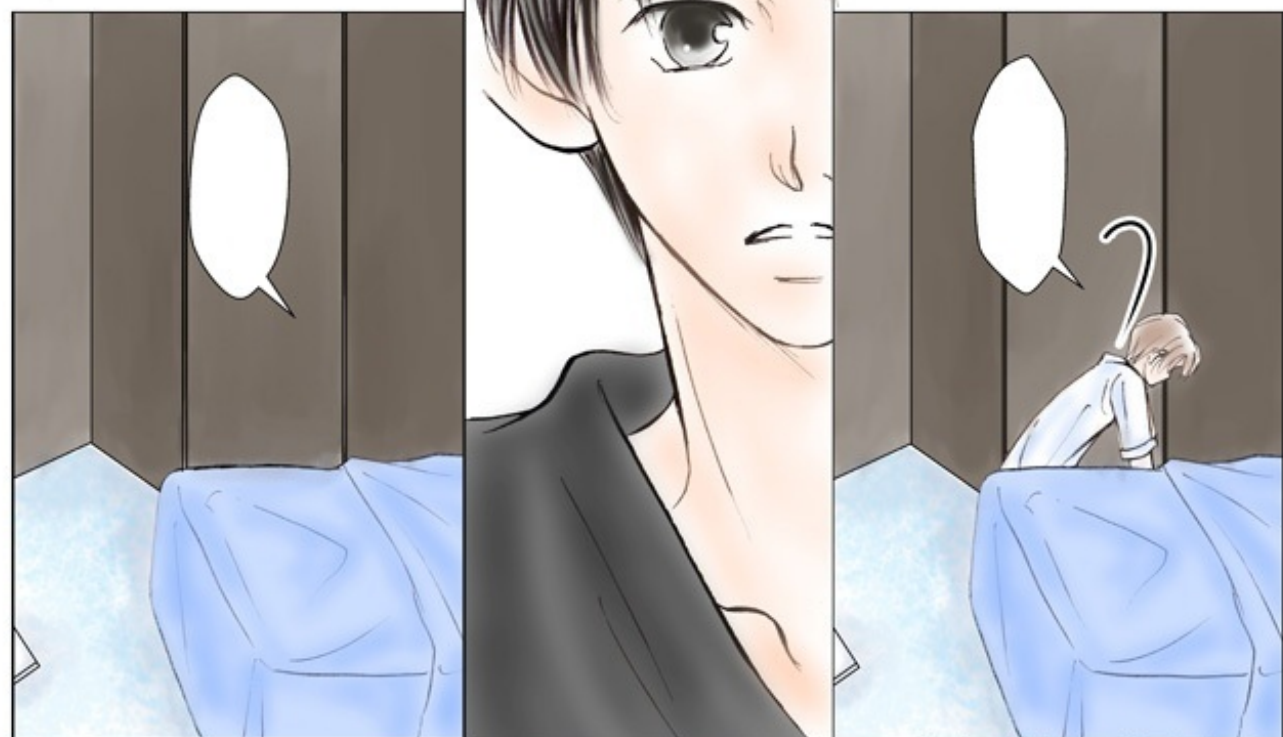




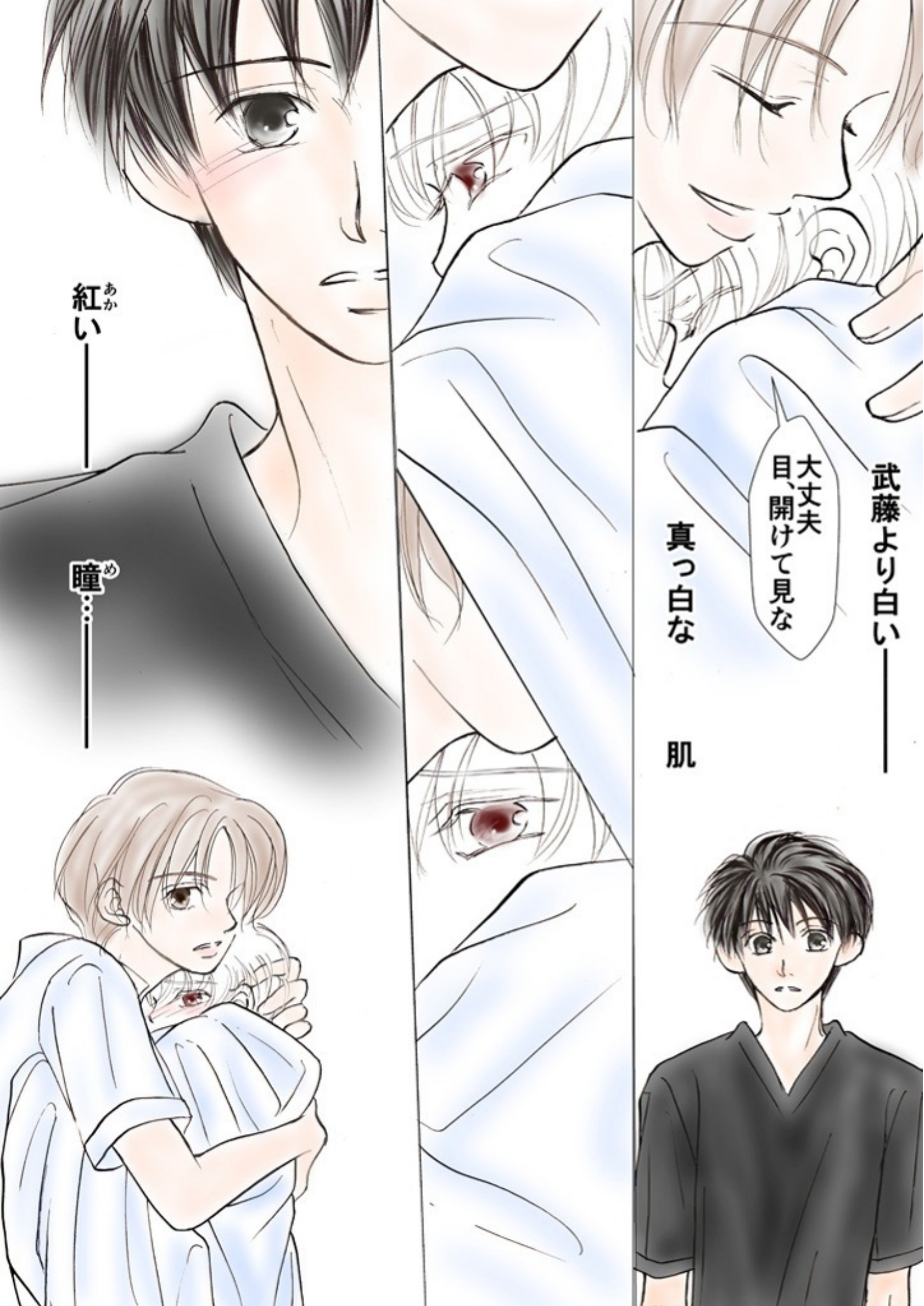












あか  
紅い

め  
瞳

大丈夫  
目、開けて見な

武藤より白い

真っ白な

肌









ああ

そうだよ

生まれた時から  
狂った父親に  
化け物扱いされて

わざと街中  
置き去りにされて  
晒し者にされたり

俺の代わりに二度も  
足の骨折られたのに  
病院にも連れて  
行かれなかったり

視界に入ってたって  
だけで殴られて  
蹴られて

アルビノで  
対人恐怖症で

同情した？

同情ならこいつ以外  
でも、もっと悲惨な奴  
たくさんいるから

そっちに  
してくれよ

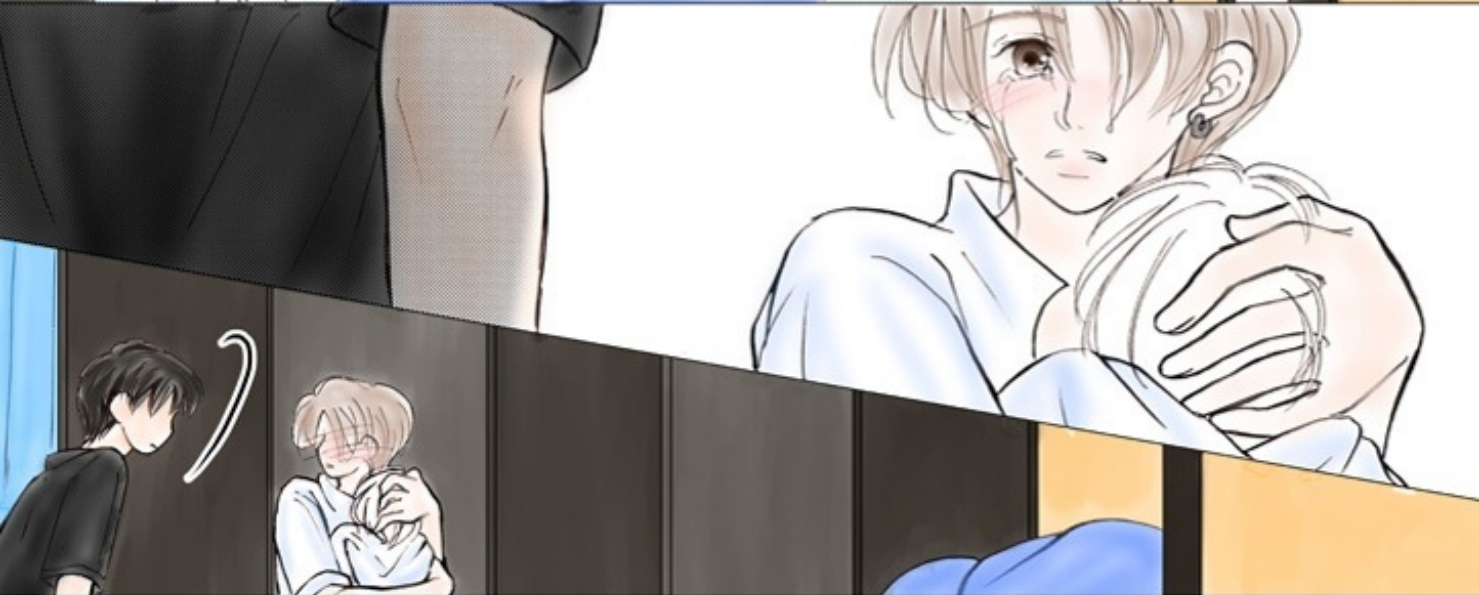
ごめ……

でも俺……  
そんな  
つもりじゃ……





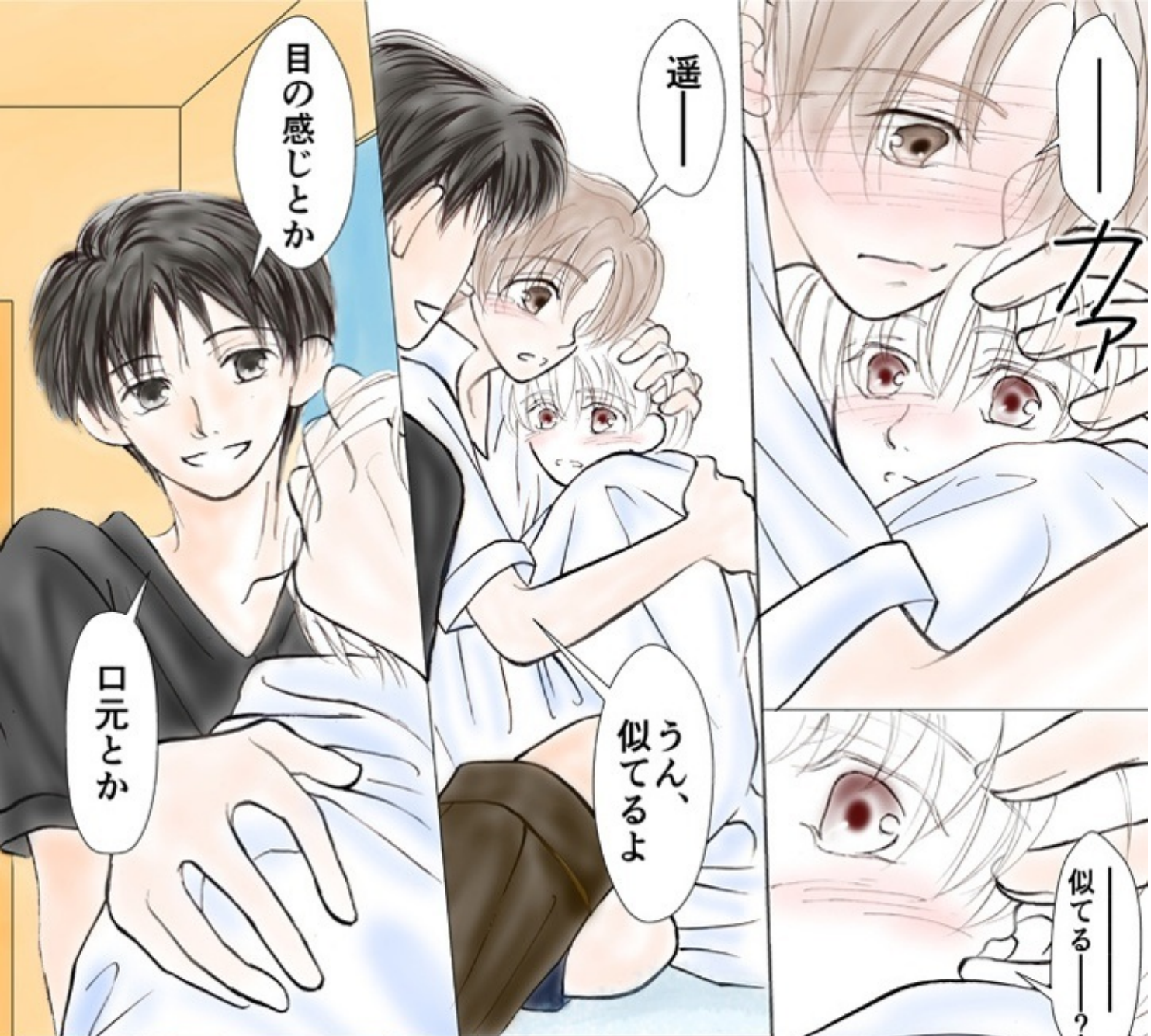












目の感じとか

遥——

——  
カア

口元とか

うん、  
似てるよ

似てる——？



兄ちゃんのなら  
歳になつたら  
きつと  
そっくりに  
なるぞお

遥……

いいなあ









—あのさ、

—アルビノ…  
って…？

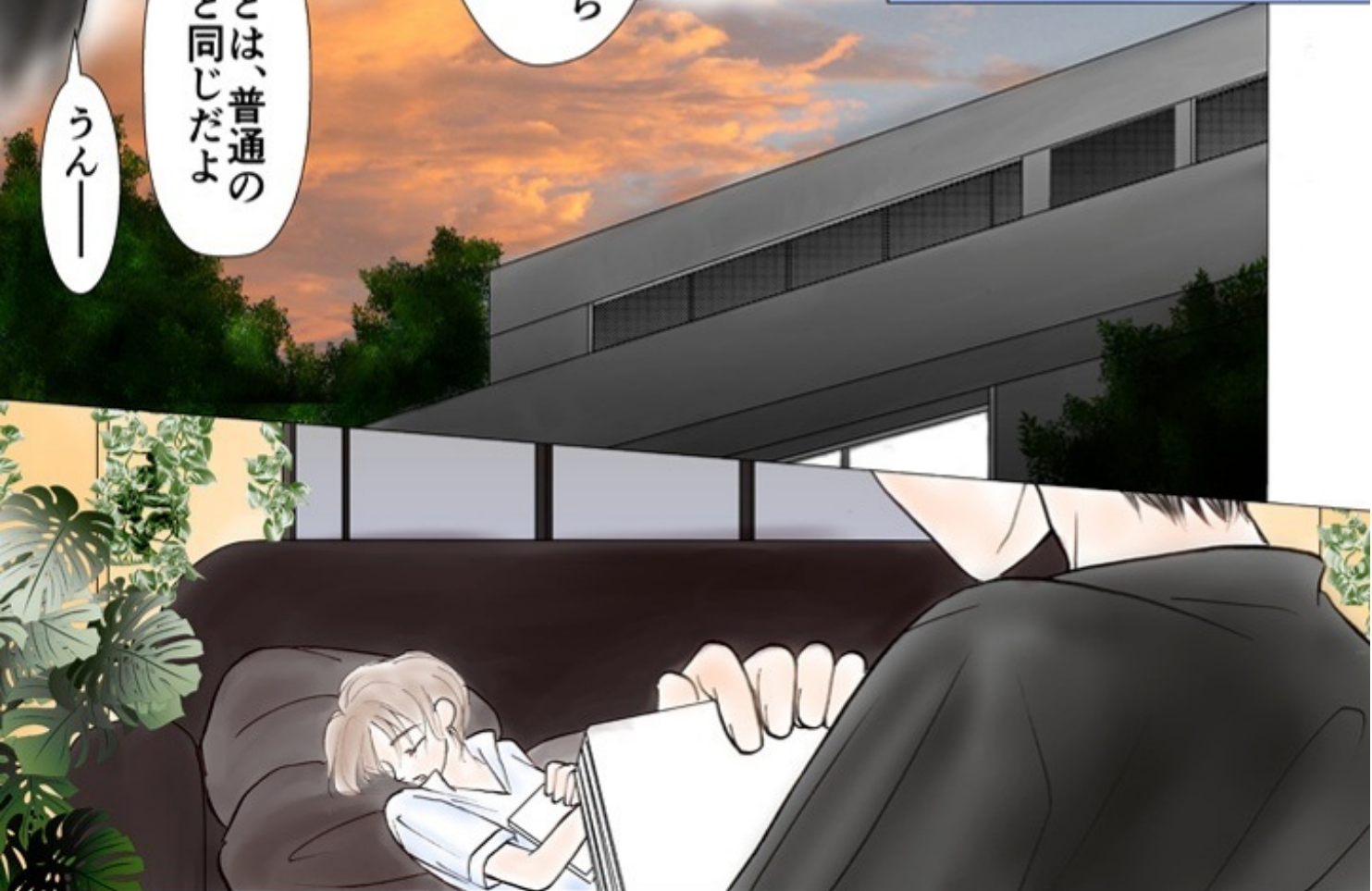
生まれつき、  
体色素が欠乏  
している  
突然変異

紫外線に弱いから  
日光にあまり  
当たれないんだ

目もやられる人  
多いらしいけど  
遥はそれ程でもない

あとは、普通の  
人と同じだよ

うん—









こんなに安心して  
熟睡出来たのって

何年か  
振りだし

うん、すっげ  
いい表情  
するよなあ

どきんっ

—お前って…  
ほんと…

何？

—お前こそ…  
ほんと、言うこと  
直接的すぎ…

あー、よく  
言われるんだ  
俺、思ったこと

最初とき  
からだけど

そのまんま  
口に出るから







これでも気にしてんだぞ  
一応っつ

しゅわ  
しゅわ  
しゅわ



単純じゃなくて  
直結思考回路  
ってやつ？

あ、思考  
してないか

お前なく

ゆきゆき



んじゃ、  
遥にも  
よろしくな



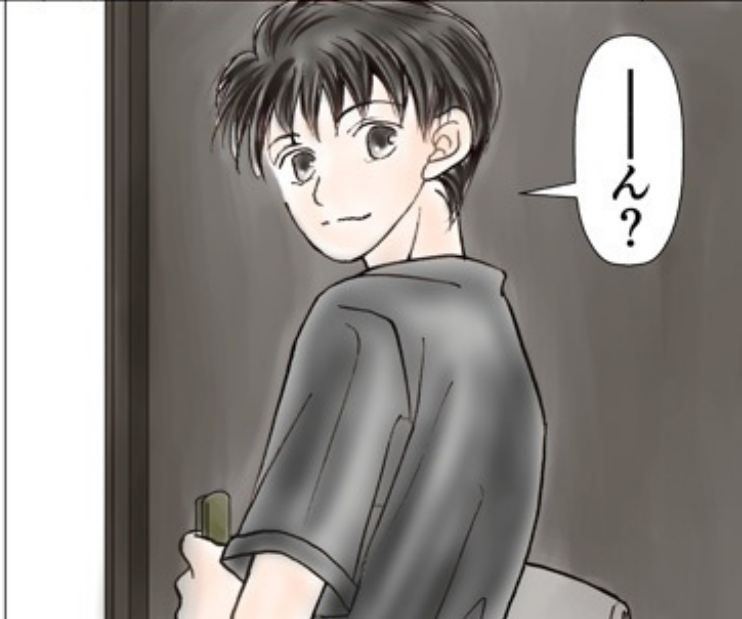
ああ

千佳良！

かきや



—明日は？



—ん？



——また、  
描かして  
もらっていい？

ああ、じゃ  
ここで  
待ってる

おうっ

んじゃ、また  
明日な

彼方

ポン

彼方





ずっと 呼ばれてみたかった

千佳良…



ずっと 呼んでみたかった

彼方

初めてだ こんな気持ち  
自分の名前を呼ばれるのが

こんなに嬉しいなんて——



かみさま vol.2

<http://p.booklog.jp/book/96709>

著者：葵生蒼空

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/shirotuki12/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/96709>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/96709>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパバー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ